

1. 建物概要

建物名称	トヨタバッテリー株式会社 新居試験棟新築工事	BEE	1.3	BEEランク	B+	★★★
------	------------------------	-----	-----	--------	----	-----

2. 重点項目への取組み度

重点項目	得点※/満点	取組み度	評価
“ふじのくに地球温暖化対策実行計画”の推進 (Global Warming)	3.5	/5	ふつつ
“災害に強いしずおか”の形成 (Disaster)	3.3	/5	ふつつ
“しずおかユニバーサルデザイン”の推進 (Universal Design)	3.7	/5	ふつつ
“緑化及び自然景観”の保全・回復 (Nature)	2.5	/5	がんばろう
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示 します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)	評価 凡例	よい 4 点以上	ふつつ 3 点以上
			がんばろう 3 点未満

3. 重点項目についての環境配慮概要

各項目について配慮した内容を、該当する番号(①～)を示し記述してください。		内訳対応項目	
“ふじのくに地球温暖化対策実行計画”の推進(Global Warming)		得点	3.5
 ■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ④高耐久な仕上げ材の使用による長寿命化を図っている。	Q-1 2 2.1 2.1.2 ①	外皮性能	
	Q-1 3 3.1 3.1.3 ②	昼光利用設備	
	Q-2 2 2.2 2.2.1 ③	昼光制御	
	2.2.2 ④	躯体材料の耐用年数	
■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上)	Q-3 1	⑤	生物環境の保全と創出
	3 3.2	⑥	敷地内温熱環境の向上
 ■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) ⑨LED照明の採用。高効率空調機の導入。 ⑩主要エネルギーの管理。	LR-1 1	⑦	建物外皮の熱負荷抑制
	2	⑧	自然エネルギー利用
	3	⑨	設備システムの高効率化
	4 4.1 ⑩	モニタリング	
■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑪雑排水利用設備の導入による雑排水の有効利用。 ⑫リサイクル材(OAフロア)の採用。	LR-2 1 1.1	⑪	節水
	1.2 1.2.1 ⑪	雨水利用システム導入の有無	
	2 2.1 ⑪	雑排水等利用システム導入の有無	
	2.2 ⑫	材料使用量の削減	
■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) ⑭省エネルギー対策により、LCCO2の削減に努めている。	2.3 ⑫	既存建築躯体等の継続使用	
	2.4 ⑫	躯体材料におけるリサイクル材の使用	
	2.5 ⑫	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	
	2.6 ⑫	持続可能な森林から産出された木材	
■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善)	3 3.1 ⑬	部材の再利用可能性向上への取組み	
	3.2 3.2.1 ⑬	有害物質を含まない材料の使用	
	3.2.2 ⑬	消火剤	
	3.2.3 ⑬	断熱材	
“災害に強いしずおか”の形成(Disaster)	LR-3 1	⑭	地球温暖化への配慮
	2 2.2	⑮	温熱環境悪化の改善
 ■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) ⑰高耐久な配管材の使用による長寿命化を図っている。	Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯	耐震性	
	2.1.2 ⑯	免震・制振性能	
	2.4 2.4.1 ⑰	空調・換気設備	
	2.4.2 ⑰	給排水・衛生設備	
“しずおかユニバーサルデザイン”の推進(Universal Design)	2.4.3 ⑰	電気設備	
	2.4.4 ⑰	機械・配管支持方法	
	2.4.5 ⑰	通信・情報設備	
	2.4.5 ⑰	通信・情報設備	
 ■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり)	Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱⑲	ユニバーサルデザイン計画	
	3 3.1 3.1.1 ⑲	階高のゆとり	
	3.1.2 ⑲	空間の形状・自由さ	
	Q-3 3 3.1 ⑲	地域性への配慮、快適性の向上	
 ■室外環境(敷地内)対策 (⑲地域性・アメニティへの配慮)	Q-3 1	⑤	生物環境の保全と創出
	2	②	まちなみ景観への配慮
	3 3.2	⑥	敷地内温熱環境の向上
	LR-2 2 2.5	⑫	持続可能な森林から産出された木材
■敷地外環境対策 (⑫持続可能な森林から産出された木材/⑮温熱環境悪化の改善)	LR-3 2 2.2	⑮	温熱環境悪化の改善

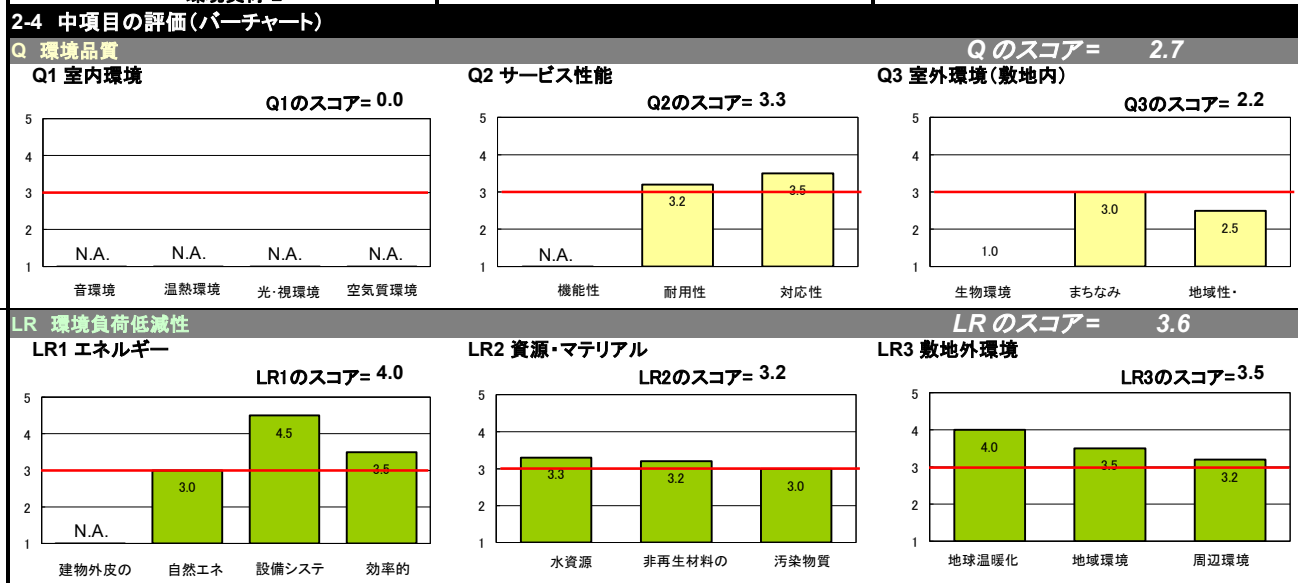
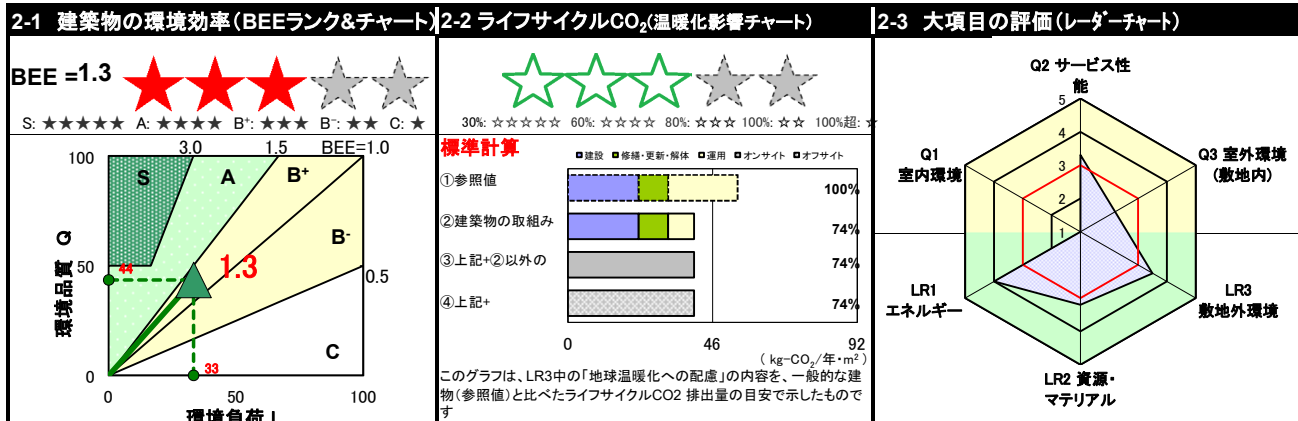
CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版_追加版

■ 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v2.3.5)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	トヨタバッテリー株式会社 新居試験	階数	地上1F
建設地	静岡県湖西市古見字大沢458-1の1	構造	RC造
用途地域	工業専用地域、指定なし、法第22条	平均居住人員	20 人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,500 時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2027年5月 予定	評価の実施日	2025年12月19日
敷地面積	56,259 m ²	作成者	高橋 春那
建築面積	5,983 m ²	確認者	
延床面積	5,992 m ²		



3 設計上の配慮事項		
総合 これはCASBEE静岡(2021年版)による評価結果です。		その他 ・特になし
Q1 室内環境 ・評価対象外	Q2 サービス性能 ・将来の用途変更の可能性等を考慮し、建物の階高、空間の形状・自由さにゆとりを持った計画としている。	Q3 室外環境(敷地内) ・高温排熱機器を設置しないことで、温熱環境の向上に配慮している。
LR1 エネルギー ・高効率な設備機器を採用し、エネルギーの効率的利用に配慮している。	LR2 資源・マテリアル ・高強度の材料やリサイクル材等を使用することにより、非再生性資源の使用量削減に配慮している。	LR3 敷地外環境 ・燃焼機器の設置をなくし、大気汚染防止に配慮している。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される